

いのき



江古田獅子舞

中野が誇る江古田の獅子舞

名譽館長 三隅治雄

区の指定無形民俗文化財「江古田の獅子舞」は、地域の歴史を背負って生きて来た貴重な郷土芸能です。

中世、江古田本村を拓いた深野家の子孫が、江戸時代、原村（現在の江原）を拓いた分家の堀野家の子孫とともに鎮守御嶽神社の祭礼に獅子舞を奉納し、明治時代、御嶽が江古田村総鎮守の氷川神社に合併されるや、場を氷川祭礼に移し、深野・堀野など旧家を中心にエリアを全域に広げて、江古田の歴史文化を顕現する芸能に成長しました。

大・中・女の三頭の獅子が組んで舞う形は、東日本に分布する三匹獅子舞の系統の一つですが、ふさふさとした鳥毛の頭を振っての豪快な舞ぶりや、青龍・白虎・朱雀・玄武の四神の作り物や山伏を従えての練り行列は、中野が全国に誇ってよい、優れた伝統文化です。

古文書フアリ

エコでエコノな IN・OUT

通勤路にある某うどん屋さん、毎年夏になると店を閉めてしまします。休業を知らせる案内板の文面は「冷房設備不備のため夏期休業します」

何という潔さ！ 初めて見た時、この虚飾も虚勢もない簡明な説明に感銘し、以来夏が近づくたび今年もやってくれるかと心待ちにしています。その一方で、夏場の建物内が冷涼であることを何の疑問もなく期待している私たちの感覚は、思えばずいぶん不自然で資源浪費型ですね。

人が多くて使う資源が多くなるほどだけ使用後の廃棄量も多くなるのですが、風呂を代表とする共用施設・設備の充実により、江戸の町は人口の割に消費エネルギーが少ない社会構造をしていました。かつ修繕と再利用が盛んで、古着・古道具は縦横に流通、反古紙や廃材はたいてい再生し、最終的に焼却した灰は埋立てに使ったりと、今より生活形態がエコロジーでエコノミー。

文化財めぐり

～沼袋の寺院～

今回は、中野区沼袋地域にある、この地で創建された寺院と明治時代以降に移転してきた寺院、合わせて8つの寺院を紹介します。

正法寺（沼袋2-19-26）慶長19年、日本橋馬喰町に開山。明暦3年、明暦の大火灾で罹災し、浅草の新寺町に移転されました。水かけ地蔵が庶民に親しまれましたが、大正12年関東大震災に遭い、大正14年、現在地に移転されました。

貞源寺（沼袋2-19-28）三河国の僧春公が、徳川家康の帰依を受け、江戸に招かれ、慶長6年、上野に創立した寺院です。幾度か火災に遭い移転し、関東大震災後、現在地に移されました。本尊の阿弥陀如来立像は、平安時代後期、12世紀の典型的な阿弥陀如来像です。

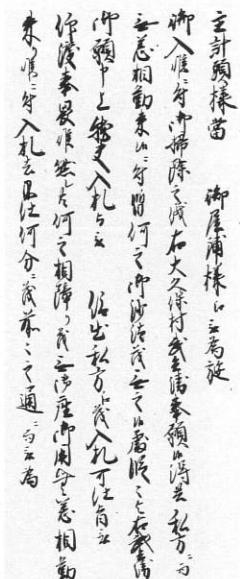
禅定院（沼袋2-28-2）貞治元年、惠尊によって現在の地に開かれました。本尊の不動明王立像は、鎌倉時代後期に造られたものです。旧上沼袋村の旧家伊藤氏の菩提寺で、伊藤寺とも呼ばれています。

そして現在ではほとんど再利用されないものも積極的に活用していました。

下の古文書は尾張徳川家に出した請願の一部。当時から清掃業務の委託を競争入札させる発想があって驚かされますが、今とは逆に清掃する方がお金を払わせてくれと申出ています。では礼金を積んでまで掃除をしたがる理由は何でしょうか。

実は、掃除して集めた廃棄物が目当なのです。武家屋敷は総じて食糧事情がよく、良質の下肥が溜っています。これは江戸市中向け野菜などを作る中野村近辺で効果抜群の肥料となりますから、大きな武家屋敷を掃除する権利は多少の謝礼を支払ってでも確保しておきたいものでした。視点を変えると、食料類を供給し廃棄物を引取る周辺地域の存在が超過密都市江戸を維持したといえます。

現在、供給元と廃棄先はどこまで見えているでしょう？



明治寺（沼袋2-28-20）大正元年開山されました。境内には寄進された観音石像が立ち並び、大正5年には百体におよび、百觀音と称されています。

久成寺（沼袋2-28-30）慶長12年大仙院日善上人により牛込弁天町に開かれ、享保の頃、隆盛を極めました。明治44年現在地に移転されました。

密蔵院（沼袋2-33-4）北條氏直の持仏、將軍地蔵を本尊とし、小田原城内に創建されました。その後、江戸矢の倉、浅草寺町に移され、明治36年、現在地に墓地を移転、昭和25年に本堂が建立されました。関東にはめずらしい形式の室町時代の弘法大師画像が伝えられています。

清谷寺（沼袋3-21-7）古来より地蔵堂屋敷があつたが、惠深大法師が地蔵を本尊とし一寺を建立したとされています。寺に存在する応永6年に建立された十三仏種子の板碑から、開山の年代が推測されます。

実相院（沼袋4-1-1）正平7年新田一族の子孫である矢島内匠、矢島図書などが沼袋村に来て建立したのが、寺の始まりと伝えられており、矢島寺とも呼ばれています。

久遠に伝る歴史

中野区の遺跡(5)

約1万年に及ぶ長い縄文時代も終焉を迎えます。今から約2400～3000年前の縄文時代晚期は、小氷期と呼ばれる一時的な寒冷期に相当しています。気温は今より約2℃ほど低く、海岸線も後退していました。この影響は大きく、それまで豊富であった主食であるクリやクルミは十分に実らず、兔・猪・鹿などの動物も減少し、狩猟採集に頼っていた当時の人々に大きなダメージを与えました。

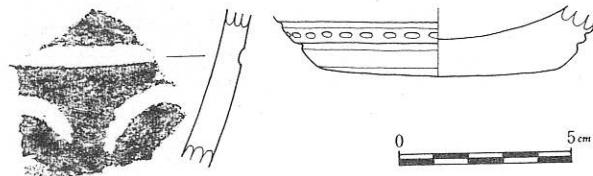
遺跡の数もそれまでと比較して極端に少なくなり、人口の激減が考えられています。ある試算では後期の段階で160,000人だった日本の人口は晚期には70,000人まで減少したといいます。

集落の規模も小さくなり、数十軒で構成されていたかつての大集落は2・3軒にまで縮小します。

また、集落をつくる場所にも大きな変化が認められます。それまで、台地上に居住していた人々は森林資源の枯渇によって、魚など川の資源を頼

りとせざるを得なくなり、河川のまわりの低地に住むようになりました。

この時期の遺跡はあまり見つかっていませんが、東京都では東村山市の下宅部遺跡が有名です。



神明小学校校庭遺跡出土の縄文時代晚期の土器

中野区では、集落としての遺跡は発見されていませんが、神明小学校校庭遺跡で、この時期の土器片が2点出土しています(上図)。左の土器片は土器の胴の部分で、幅のある窪んだ線で文様が施されています。右の土器片は土器の底の部分の破片で、2条の平行に施された窪んだ線の間に軽く突き刺した文様があります。安行3c式という土器形式に属するものと考えられています。

縄文時代晚期の中野では、神明小学校の北側の神田川の近くの低地に、わずかな人々が住んでいたのでした。

(つづく)

文化財よもやま話

中野区傷痍軍人会からの寄贈品

中野区傷痍軍人会は昭和26年に設立され、以後60年近くもの間活動を続けて来られましたが、会員数の減少にともない、平成20年の総会をもって解散されました。解散後の今年7月、傷痍軍人会より会旗をはじめ、いくつかの資料の寄贈がありましたので、その中の2点を紹介いたします。

写真①の軍人会の会旗は、昭和37年に設立10周年記念として鍋屋横丁にあったお店で作り、毎年の総会で使用していたものです。中央に傷痍軍人のマークが刺繡されており、保存状態も良く、色あせや汚れなどがほとんどありません。

写真②は、会長の大村氏から寄贈の右手薬指の義指です。昭和18年、ニューギニアでの爆撃により大負傷し、野戦病院のテントの手術室で負傷した薬指をノコギリで切断され、やすりで面取り縫合するという処置を受けたとのことです。(『創立55周年記念誌』平成19年・中野区傷痍軍人会発行より) この資料は、指の2カ所の関節部分が曲げ

られるように作られており、指の付け根の部分には、天皇陛下から贈られた物を示す‘賜’という文字が彫られています。ただし一度も使用していないとのことでした。

これらの資料は、戦争を後世に伝えるための貴重な資料ばかりです。いま、各地で傷痍軍人会の解散のニュースが聞かれます。時が経つとともに、戦争を体験した人の生の話は、少しずつ聞くことができなくなるでしょう。その時、これらの物言わぬ資料は、今以上に大きな役割を果たすことが期待されます。引き継がれていく資料とともに、戦争体験のない私たちも、20世紀の戦争をどのように後世に伝えていかなければならないかを考える時期にさしかかっていると実感しました。



① 会旗



② 義指

事業報告

各種事業経過

2008年4月～2008年9月

事業名	内 容	期間
企画展	「人形展」	4/29～5/25
所蔵名品展	「歴史をかたる文化財」 「オリンピックを読みましょう」	4/29～5/15 7/1～8/31
年中行事展	「端午の節句」	4/22～5/10
夏休み学習展	「むかしの中野がわかる物」	7/21～8/31
夏休み事業	「学習相談」 7/22・8/2・13 「火おこし」 7/25・8/7・27 「お手玉作り」 7/30 「押絵作り」 8/1・22 「せんたく板でせんたく」 8/6 「張り子作り」 8/14	「昭和のくらしを見て聞いて」 7/24・8/28 「土器作り」 7/26 「障子張り」 7/31 「ざる作り」 8/5 「紙すき体験」 8/8・20 「勾玉作り」 8/23
歴民講座	「江古田獅子舞の世界」 講師：三隅治雄氏（芸能学会会長） 内藤浩誉氏（國學院大学講師） 牧野真一氏（成城大学民俗学研究所研究員）	9/7・14・28
古文書講座	講師：笠原綾氏（日本放送協会学園専任講師）	9/20・27
公開事業	春季「山崎家茶室書院公開」	4/26～5/6
埋蔵文化財対応	南台五丁目31番民有地立会調査 松が丘二丁目14番民有地試掘調査（国庫補助金対象事業） 本町三丁目15番民有地立会調査 江古田一丁目35番民有地試掘調査（国庫補助金対象事業） 江古田一丁目30番民有地試掘調査 本町二丁目33番民有地試掘調査（国庫補助金対象事業）	3/21 4/9 7/15 7/31 8/25 8/27
その他	昭和なつメロ鑑賞会・講演会 講師：八児雄三郎氏 小学校3・4・6学年総合学習見学15校	6/13 4月～9月

寄贈資料一覧

2008年1月～2008年7月

敬称略受入順

資料名	点数	氏名
千人針	1	東泉昭子
雛人形ほか	一括	小谷津知恵子
雛人形ほか	一括	鈴木政子
端午の節句飾り	一括	美馬是彦
オリンピック関連資料ほか	一括	鈴木政子
雛人形ほか	一括	横山雅喜
オリンピック関連資料	一括	村木誠
会旗ほか	一括	中野区傷痍軍人会

入館状況

2008年3月～2008年8月（延べ153日間）（人）

一般	団体	学校教育	合計
16,795	202	701	17,698

発行年月日 2008年10月1日

編集・発行 山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4
☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申しあげます。